

結論：軟骨組織が微細で幼弱な段階で滑膜から上関節腔に放出し、関節腔内でそれぞれが成熟し、米粒大へとなる機序が示唆された。

演題 4. 平成 20 年度岩手県国民健康保険診療施設歯科診療所研修の研修歯科医と受入れ施設に対するアンケート調査

○工藤 義之, 岸 光男, 熊谷 啓二,
千田弥栄子, 柳谷 隆仁, 岡田 伸男,
星野 正行, 古川 良俊, 浅野 明子,
三浦 廣行

岩手医科大学歯学部総合歯科学講座
総合歯科教育学分野

目的：歯科訪問診療、歯科保健活動を含む地域医療およびへき地における歯科医療を研修歯科医が経験することを目的に、平成 18 年度から岩手医科大学附属病院歯科医師臨床研修プログラムでは岩手県内の国民健康保険診療施設歯科診療所において 3 日間の研修を 3 年間実施した。平成 18 年度研修終了後に受入れ施設を対象としたアンケート調査を実施し研修の改善を図った。本研究の目的は改善後の研修の評価、分析と改善点を抽出することである。

対象と方法：平成 20 年度本研修に参加した研修歯科医 33 名と研修を受入れた 9 施設の両者を対象としたアンケート調査を実施した。

結果と考察：回収率は研修歯科医 85%、受入れ施設 100%であった。本研修を通じて 79%の研修歯科医が歯科訪問診療、歯科保健活動を含むへき地における地域医療歯科医療を経験することができた。研修日程によっては歯科訪問診療、歯科保健活動を経験できなかったため受入れ施設の予定を把握した上で研修日程を策定する必要があると考えられた。本研修に懸かる宿泊で研修歯科医の費用負担に差があったことから早急に是正する必要があると考えられた。研修歯科医が本研修を経験することについて 93%の研修歯科医が有用であると考え、すべての受入れ施設が有意義であると考えていた。本研修を通じて研修歯科医が経験したことは、本院や協力型施設では経験することが困難であることから、本研修を継続する意義があると考えられた。

結論：本研修は本院歯科医師臨床研修プログラムの目標達成に必要な研修である。

演題 5. 歯科医師卒後臨床研修初期における医療面接研修の意義

○千田弥栄子, 岸 光男, 熊谷 啓二,
柳谷 隆仁, 浅野 明子, 坂本 望,
星野 正行, 瀬川 清, 工藤 義之,
三浦 廣行

岩手医科大学歯学部総合歯科学講座
総合歯科教育学分野

目的：現在、岩手医科大学歯科医師臨床研修プログラムでは研修初期に、専門の教育を受けた模擬患者（SP）と対峙する医療面接研修を実施している。我々は、研修評価の分析と研修歯科医に対するアンケート調査を行い、本研修の意義を検討した。

方法：平成 21 年度に医療面接研修を行った臨床研修歯科医 30 名を対象とした。研修では、A「歯周治療と義歯作製過程の説明」、B「麻酔抜髄法の説明」、C「入院の必要性の説明」の 3 課題を行った。研修歯科医の医療面接は SP と指導歯科医が同じ項目について評価した。研修後に 15 項目のアンケート調査を実施し、結果の主成分分析後、抽出された成分得点の課題別平均値を一元配置分散分析に供した。

結果：抽出された 3 つの主成分で全固有値の 66.8% が説明された。成分 1 は「専門の SP に面接したことの意義」に関する成分と推測された。また成分 1 の因子得点平均値に課題間で差が認められ、C 課題を実施した者で有意に高かった。成分 2 は「研修内容への理解」、成分 3 は「研修プログラムとしての医療面接研修への評価」を表す成分と考えられた。また、課題 C において SP は研修歯科医の面接を他の課題よりも低く評価していたのに対し、指導歯科医の評価は高かった。

考察：高難度の課題において専門的 SP と面接した場合に、研修歯科医は本研修に意義を感じているものと考えられた。課題 C で SP と指導歯科医の評価に差が生じたことは、指導歯科医が課題の難易度を考慮したことによると思われる。困難な課題に対してもある程度の水準を求